

## 令和2年国勢調査 不詳補完結果の状況

### Status of Result with Imputation on 2020 Population Census

関野秀峰 北原昌嗣（総務省統計局）

SEKINO Hidemine and KITAHARA Masatsugu (Statistics Bureau of Japan)

c-kenkyuu@soumu. go. jp

総務省統計局では、令和2年国勢調査の集計に当たり、結果利用者の利便性向上を図るため、主な項目の集計結果（原数値）に含まれる「不詳」をあん分等によって補完した「不詳補完値」を算出し、これを表章した統計表を参考表として提供している。

不詳を補完した結果については、平成27年調査当時もあん分により一部作成したところであるが、令和2年調査においては、更なる取り組みとして、これを大幅に拡充しており、あん分の前処理として一部項目について部分的な補完処理を導入した上で、補完対象項目や集計結果表数も大幅に拡大している。

補完結果をみると、年齢については総数の2.32%が補完され、特に20歳代を中心とした若年層への補完が多くなっているほか、国籍（日本人・外国人の別）については総数の1.75%が補完され、外国人の補完率が高くなっているといった特徴がみられ、不詳の属性に存在していると考えられる偏りによる影響を前処理の部分補完で補正するとともに、詳細な分類基準であん分したことにより、不詳のため特に過少との懸念があった若年層や外国人などの区分に重点的な補完がされた。また、配偶関係については15歳以上人口のうち6.73%が補完され、若年層における未婚、高齢層における死別への補完が多い状況となった。

こうした補完結果の妥当性を、年齢及び国籍（日本人・外国人の別）については住民基本台帳による人口と、配偶関係については労働力調査結果と比較し確認したところ、特に年齢及び国籍について、他統計との整合性が高まっている結果が得られた。また、5年前からの変化を同様の方法により遡及集計した結果との比較により確認したところ、コーホートで見たときに、不詳の影響により原数値でみられた若年層における不自然な変化が、不詳補完値では解消された結果が得られた。

さらに、地域別に補完状況を確認すると、補完された属性の傾向や結果への影響の程度は地域によって異なっており、不詳の発生率との関係をみると、不詳が多く発生している地域ほど分布の変化が大きくなっているほか、世帯属性との関係をみると、単独世帯や共同住宅世帯といった調査困難世帯が多い地域ほど分布の変化が大きくなっているなど、地域特性が反映されたものとなった。